

## テレビ放送のデジタル化計画

中川 良一

## ＜アナログ放送からデジタル放送へ＞

ベトナム政府は 2015 年より国内の全てのテレビ局を徐々にデジタル化する計画を開始しました。2017 年末現在、全国の 63 省（自治体）のテレビ局の約半数は既にアナログ放送を停止しデジタル放送に切り替え、2020 年までに全国の全てのテレビ局の放送方式をデジタルに切り替える予定です。

テレビ放送のデジタル化計画の一環として、当局は、テレビ放送の映像及び音声の基準を MPEG-2 又は MPEG-4 と定め、2013 年 1 月 1 日より国内で生産されるテレビ及び輸入品はこれらの基準に対応するものしか認められていません。

注：2013 年 4 月になってからこの規定の発効日が延期され、32 インチ以下のテレビについては、その発効日が 2014 年 4 月 1 日、32 インチ以上のものは 2015 年 4 月 1 日となっている。

## ＜デジタル放送の視聴方法＞

現在、視聴者は下記の方法でデジタルテレビ番組をみることが出来ます。

1. デジタル地上放送（略語：DVB-T）
2. ケーブルテレビ（略称：DVB-C2）
3. 衛星放送（略称：DVB-S2）

現在衛星による受信方式はそれほど普及していないように思われますが、ケーブルテレビは都市部などで急速に普及しています。

国内のケーブルテレビ配信業者も多々あり、

- ・VTVcab（ベトナムケーブルテレビ）
  - ・SCTV（サイゴン旅行社ケーブルテレビ）
  - ・HCA TV（ハノイテレビケーブル）
  - ・HTVC（ホーチミン市ケーブルテレビ）等
- が主なケーブルテレビ配信業者です。

VTVcab の場合、170 のチャンネルが見られるパッケージの配信料は月当たり 16 万ドン（約 750 円）であり、比較的に利用しやすい値段が設定されています。

## ＜デジタル放送化で期待されるビジネス＞

テレビ放送のデジタル化に伴い、**右表** → のようなビジネスが期待されています。

## ＜ベトナムと日本のテレビ局への今後の期待＞

ベトナムのテレビ放送局は全て国営若しくは省営（自治体所属）または国営企業の傘下ですが、最近徐々に予算が削減されているため、コマーシャル放送による広告収入増額に各社、力を入れています。企業によっては、予算の 90% がコマーシャル収入であり、国からの予算は 10% である放送局もあるようです。今後も予算削減が進むことが予測されるため、各社視聴率をあげるためのコンテンツ探しに力をいれ、スポンサー獲得につなげています。

日本からのコンテンツ導入では、アニメは数多く取入れられていますが、その他のプログラムは、価格および著作権の複雑さなどの理由により、韓国に大きく後れを取っています。しかし、最近では日本への留学や技能実習生等多くのベトナム人若者が日本での生活を経験してきており、今後、日本のドラマやバラエティー等幅広い分野のプログラムの導入が期待されています。

## ❖ ❖ 期待されるビジネス ❖ ❖

## ①各放送方式に対応したテレビの需要増

ベトナム国内で販売されるデジタル対応テレビは SAMSUNG、LG の韓国ブランドと SONY、PANASONIC の日本ブランドが主流。全て液晶型で、特にハノイ及びホーチミン市等都市部では大画面テレビの人気の高い。家電販売店に並びテレビはほぼ大型で、最も普及している 49 インチのテレビは 1,800 万ドン（約 8 万円・SONY）で販売。

## ②地上デジタル放送受信アンテナの需要増

屋内、屋外用の様々なデジタル対応テレビアンテナが販売されている。ベトナム企業も製造しているが、現地日系企業も、製造販売に対し関心を見せるところがある。

- ベトナムで販売されるアンテナ
- 左：屋外用
- 右：屋内用



## ③デジタル受信ボックスの需要増

アナログテレビでデジタル放送を見るには、デジタル受信ボックスが必要。ベトナム国内では既に数種が製造販売されている。